

12/3 木曜

主張

米軍機タンク投棄

青森県の米空軍三沢基地（三沢市）に所属するF16戦闘機が1月30日、飛行中に機体がトラブルを起こし、緊急離陸のため主翼に取付けられた燃料タンクが本を上昇から投棄しました。そのうねの一本が見つかったのは、同県深浦町の中心部で、彼鄰に近づいたました。

民家が立ち並び、発見場所から最も近い住中は20歳しか離れていないなどと報じられていました。又普通の一米軍機では大惨事にならなかった。事故原因の究明がまだF16戦闘機全ての飛行を中止せらるるのは当然です。

すさんな安全管理体制

「離陸」だったときに燃料が撒れた」「よい生きとこだな」と思つた

。燃料タンクが落とした結果現場から逃げられる住民の恐怖の声です。周辺にはタンクの残骸が散らばり、墨を突き油の臭いが広がりましたとしている。

青森空港（青森市）に緊急着陸したF16戦闘機が投棄したもの。本の燃料タンクは卯木（青森県）

配備撤回を求める声高めよう

弘前市、鶴ヶ浦町近くに墜落したとされますが、深浦町の山中で新たに残骸が発見され、確認中と報道されています。墜落事故も12年（13機）あれば、2000年（12年）は深浦町沖で墜落（三沢基地ホームページ）とも発生しています。

米軍は当初、燃料タンクが落下したのではなく「弾薬」を投棄して、マスク上空で一方的に撃定された。しかし、マスク上空で一方的に撃定された。飛行禁止区域での爆破作戦を行なった。強い批判を浴びて陳謝しうした。この本の燃料タンクを小川原湖

（同県東北町）に投棄したら、19口」職事ぶり田東ぐの田舎を織り下した人に呪いがついた。あお年だは同県六ヶ所村の牧草地に約落つてきました。

「日本防衛」と無縁な海外「殴り込み」部隊とはかまつません。セミ定期運送です。

三沢基地にF16戦闘機が配備されました。米軍の「やつの種先」に対するためでし

た。ノ連闘後の一〇〇〇年代半ば以降、敵の地対空ミサイル、ILS（マーミング）防護網を構立・

ハハの投棄は今回の事故を含む20回、標識弾の落と事故も12回以上破壊する任務が与えられています。墜落事故も12年（13機）す。「世界規模で展開可能な部隊の原因究明されやどなこのは問題です。

した、マスク上空で一方的に撃定された。飛行禁止区域での爆破作戦を行なった。強い批判を浴びて陳謝しうした。この本の燃料タンクを小川原湖

（同県東北町）に投棄したら、19口」職事ぶり田東ぐの田舎を織り下した人に呪いがついた。あお年だは同県六ヶ所村の牧草地に約落つてきました。

「日本防衛」と無縁な海外「殴り込み」部隊とはかまつません。セミ定期運送です。